



2011.9

第54号

発行所：NPO法人瀬田川リバプレ隊事務局 〒520-2134 大津市瀬田5丁目27-2  
TEL & FAX 077-543-0752 URL : <http://www.animateur.co.jp/riverplay/>

7月 8月の活動

7月1日(金)

琵琶湖環境美化一斉清掃参加

場所 ピアザ淡海湖畔から膳所公園  
参加者 朝田、美濃部、藤村、井上



「琵琶湖の日設定30周年行事」の一環として琵琶湖一斉清掃が行われ、リバプレ隊は大津地区に参加しました。ピアザ淡海湖畔に集合後浜大津方面、膳所公園方面、湖岸に漂着した藻引き上げと3班に分かれて活動。リバプレ隊は膳所公園方面のゴミ回収に参加しました。湖岸遊歩道のゴミは少なかつたが、湖岸石積み付近には缶、ペットボトル等がありました。釣り客のポイ捨てかも?。

7月3日(日)  
湖国環境フェスタ2011

場所 草津市鳥丸半島多目的広場  
参加者 美濃部、後藤、富岡



日本青年会議所滋賀ブロック協議会主催行事に参加依頼があり、パネル展示及び木工作品を展示しました。「びわこ大好きあつまれ」を見て聞いて体験しよう」をテーマに開催。さかな君のトークショー、カヌー体験、クイズ大会、お魚タッチ体験等のイベント、及び県下各環境関連団体のパネル展示がありました。当日は琵琶湖博物館無料公開日で周辺道路は渋滞して、会場内は大勢の来場

者で盛況でした。来場者は子供連れが多く、パネル展示等には関心は少なかつた。

7月10日(日)

琵琶湖の日シンポジウム

場所 ピアザ淡海

参加者 美濃部、富岡、後藤、藤村  
谷村、朝田



琵琶湖の日30周年記念シンポジウム「びわ湖とつながる びわ湖と生きる」が行われ、リバプレ隊はパネル展示、木工作品の展示を行いました。

基調講演 写真家 今森光彦氏「里山 未来におくる風景」をテーマに写真を交えて講演及び今森さんと嘉田知事との対談が行われました。第二部 びわ湖発「環境保全活動等報告会として企業報告 平和堂 伊藤園、子どもたちの環境活動 大津逢坂小学校、TANAKAMIこども環境クラブ、NPO団体活動 ウォーターステーション琵琶湖の会、世界に羽ばたく水技術 東レより発表 パネル展示は企業、学校、NPO等環境団体、滋賀県と各ブースで行われていました。パネル展示にも嘉田知事を始め多くの閲覧者があり盛会でした。

《びわ湖の日設定について》

湖沼などの水中に溶けている窒素やりんなどの栄養塩類が多い状態になることを富栄養化といいます。琵琶湖では富栄養化が進み、1977年(昭和52年)5月に淡水赤潮が大規模に発生し、水道水の異臭味障害、養魚場でのアユ、コイなどの斃死被害などをもたらしました。淡水赤潮の原因の一つが合成洗剤に含まれているりんに起因することがわかり、

県民が主体となって、合成洗剤の使用をやめ、粉石けんを使うという運動(石けん運動)が始まりました。県民による石けん運動の盛り上がりなどを背景に1980年(昭和55年)7月1日、滋賀県は全国に先駆けて、琵琶湖の富栄養化の原因となる窒素、りんの排出規制等を定めた「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」(琵琶湖条例)を施行しました。その翌年、琵琶湖条例の施行1周年を記念して、7月1日を「びわ湖の日」と決定しました。こうした動きは、本県の環境政策の歴史に残る出来事であり、環境先進県といわれる所以でもあります。その後、1996年(平成8年)7月に施行された滋賀県環境基本条例で、県民および事業者の間に広く環境の保全についての理解と認識を深めるとともに、環境の保全に関する活動への参加意欲を高めるため、7月1日を「びわ湖の日」と定めています。

7月23日(土)、24日(日)  
「水辺の匠 おもしろステージ」  
パネル展示、木工教室参加  
場所 ウォーターステーション琵琶湖  
参加者 朝田、富田、井上孝夫  
山元、美濃部  
琵琶の会主催行事 水辺の匠 おも

しるステージが2日間開催され、リバプレ隊はパネル展示、木工教室、フクロウ作りに協力参加しました。パネル展示はリバプレ隊と子供たちをテーマにしました。木工教室は毎年好評のフクロウ作りを行い、子供たちを始め大人の方にも、喜ばれました。



7月24日(日)  
大石川生きもの調査隊  
場所 瀬田川下流 大石川河口付近  
参加者 後藤、富岡、伊藤、中山勝  
中山進、美濃部  
講師 琵琶湖博物館のおの会中村氏  
国土交通省淀川ダム統合管理事務所  
所が「森と湖に親しむ旬間」(7月21日から31日)行事として、大石川において、小学生による水生生物調査

(ふるさとの川(大石川)調査隊を企画され、リバプレ隊に協力依頼があり協力参加しました。



当日は台風6号が去り、天候も回復して真夏の午前、大石地区子供

たち52名及びお父さん、お母さん先生等総勢約100名の参加者でした。調査は講師から調査方法や注意事項の説明を受けた後、6班に分かれて大石川に入り、魚、カエル、カメ等いろいろな川の生きものを捕まえました。捕まえた生き物の種類から、旧高橋より上流はきれいな水(水質階級1)下流は少しきたない水(水質階級2)と判定されました。参加した子供たちはたくさん生き物にふれ、大石川の豊かな自然環境を感じ、とても楽しくまた機会があれば参加したい、など感想がありました。今回の企画には、大石学区自治連合会、大石小学校及びPTA、大津市大石支所等の協力がありました。

瀬田川清掃活動 7月10日(日)

8月10日(水)

参加者 7月 後藤、中山、片山

藤田、伊藤、富田、朝田、井上  
地元の方 1名、レイカディア  
大学OB2名

8月 井上、後藤、岩槻

中山勝、谷村、富田、藤田、朝田、美濃部

地元の方 1名、レイカディア  
大学OB 3名

7月8月共に厳しい暑さの中でコムラサキシキブ周辺のつる草や笹の刈り取り整備及び、水天宮ハス停ま

でのゴミ回収を行いました。ゴミ配収量7月11袋、8月15袋でした。



高橋川清掃活動 7月25日(月)

8月25日(木)

参加者 7月 井上、長谷川、富岡

岩槻、渡邊、伊藤、谷村、後藤  
朝田、美濃部

8月 岩槻、井上、後藤  
地元の方 9名

伊藤、美濃部、朝田  
地元の方 8名

7月8月共に厳しい暑さの中、河川敷 河川壁面の雑草や樹木が生い茂っている為、草刈り機と手作業で刈り取り、袋詰め作業を行いました。7月には大阪ゴミユニティ財団、東洋ゴム工業環境基金より、活動を取材にられました。河川には子魚が見られるようになり、花壇は女性の方の管理整備により夏の花(瓜切

り草)が咲きました。

ゴミ回収量 7月 71袋ペットボトル2袋、不燃ごみ1袋

8月 72袋、ペットボトル1袋、不燃ごみ2袋、缶1袋



参考 ヨシ群落保全条例

琵琶湖およびその周辺のヨシは古来屋根葺きや簾など、生活のなかで利用されるとともに、美しい自然の恵みとして県民や訪れる人々に親しまれています。そこでは人々とヨシとの深い結び付きが、ヨシの刈り取りを通じてヨシの世代交替を促し、その存続・維持に大きく寄与してきましたが、近年、私たちの生活様式が変化するにつれて、ヨシの産業的利用が衰退し、人々のヨシに対する

関心は薄れてきました。ヨシ群落は、湖国らしい個性豊かな郷土の原風景であり、魚類・鳥類の生息場所、湖岸の侵食防止、水質保全等多様な機能を有しており、豊かな生物相を育み、琵琶湖の環境保全に大きな役割を果たしています。県では、このようなヨシ群落の多様な働きを見直し、保全することによって、美しい琵琶湖を次代に引き継いでいくため、平成4年3月30日滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例(以下、ヨシ群落保全条例)という。)を公布し、同年7月1日から施行しました。ヨシ群落保全条例は、「自然と人の共生」を具体化するものとして、生態系の保全を積極的に定めた全国で初めての条例であり、その前文にうたわれているように、琵琶湖自身の健全な自然の営みを重視し、その維持と回復に努める必要があることから、琵琶湖の保全活動の新たな第一歩として湖辺のヨシ群落の保全を図っていくとするものです。条例では、ヨシ、マコモ、ウギヤガラ、ガマ等の抽水植物とこれらとヤナギ類が一体となったものをヨシ群落と定義し、「守る」「育てる」「活用する」の3本の柱として施策を進めることとしています。

外来魚の取扱い

「外来生物法」ではキャッチ・アンド・リリースは禁止されていませんが、「外来生物法施行規則(案)」に係る意見と対応の考え方(H17年4月22日環境省報道発表資料)ではリリース禁止に対して「各自治体でどのような規制を行うかについては各自治体の判断に任されていると考えます」とされ、また「オオクチバス等に係る防除の指針(H17年6月3日環境省 水産庁)」でも「キャッチ・アンド・リリース禁止の導入については、防除水域の状況に心じて、当該水域での必要性等を個別に検討することが適切です」と示されているなど、外来生物法施行後も琵琶湖ではこれまでどおり、「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」に基づき、ブルーギルやブラックバスは「リリース禁止」です。釣りというレジャーの中でも、琵琶湖の生態系を取りもどす取り組みに「理解とご協力をお願いいたします。琵琶湖は多くの固有種が生息する世界でも有数の古代湖であり、そこには貴重で豊かな生態系が育まれてきました。しかし近年は岸辺の魚類のほとんどをブルーギルやブラックバスの外来魚が占めるようになり、少しでも外来魚を減らしていく

取り組みが必要です。琵琶湖の「外来魚回収いけす」は、幅広い釣り人の協力を得て外来魚の防除を推進するために設置しているものであり、回収された外来魚は殺処分の上、堆肥として有効利用を行っています。外来魚に関し、外来生物法で禁止される「生きたままの運搬」とは、当該外来魚が捕獲された水域と同一性・一体性のない別の場所に運び移すことをいいます。したがって、琵琶湖で釣った外来魚を、琵琶湖内(漁港を含む。)にある「回収いけす」に投入することは問題ありませんが琵琶湖と同一性・一体性のない別の場所(例：湖周道路路以遠であつて漁港の区域外)に外来魚を生きたまま運び移すことは違反行為となります。また、外来魚回収いけすに入れるため、釣りをしている間、外来魚を生かしたままバケツやビクに入れておくことは問題ありません。また、船で釣ったブラックバス、ブルーギルを生かしたまま、湖上を移動して湖岸の外来魚回収いけすまで運び移すことも問題ありません。

《理事会報告》

7月16日(土) WS琵琶湖  
出席者 富岡、伊藤、後藤、谷村、渡邊、井上、朝田  
今回より新しく理事に就任された井

上孝夫さんが紹介されました。議事

先月の活動報告

- \* 高橋川清掃活動 報告書参照
- \* 瀬田川清掃&コムラサキシキブ維持管理 報告書参照
- \* 天ヶ瀬ダムゴミ調査
- \* 青年会議所主催行事 記事掲載
- \* 琵琶湖の日シンポジウム 記事掲載
- \* 琵琶湖の日清掃活動 記事掲載
- \* 高橋川清掃活動 記事掲載
- \* 瀬田川清掃&コムラサキシキブ維持管理 記事掲載
- \* 大石川生き物調査隊 記事掲載
- \* 大津環境フォーラム交流会にパネル展示参加 9月
- \* 市民会議 11月26日予定
- その他
  - \* 損害保険の件 電動工具等の使用による保険、承認
  - \* 木工教室実施の件
  - \* 学習推進協議会連合会瀬田プロジェクト炭会長よりリバプレ隊活動報告の依頼があり、了承する。

《COD値が》

他の河川より高値で原因は不明であるがゴルフ場の関係があるので

8月20日(土) WS琵琶湖  
出席者 富岡、伊藤、後藤、渡邊

井上、朝田、美濃部

議事

先月活動報告

- \* 高橋川清掃活動 東洋ゴム環境基金、東氏が活動取材に來られる。リバプレ隊の幅広い活動に関心され、今後は更に幅広い活動に参加が出来るよつな企画の要請を受ける。
- \* コムラサキシキブ維持管理&瀬田川清掃 物置庫設置の件は進展なく検討中、その他記事参照
- \* 大石川生きもの調査隊 記事参照
- \* 木工教室の件 6団体出前講座、木工教室を実施
- 今後の予定
  - \* 高橋川清掃活動 8月25日
  - \* コムラサキシキブ維持管理&瀬田川清掃 9月10日
  - \* 天ヶ瀬ダムゴミ調査 9月9日
  - \* 瀬田川一斉清掃 10月23日
  - \* 実行委員会9月9日開催河川事務所にて、ボランティアサポートについて説明含む
  - \* 9月10日 大津環境フォーラム交流会 パネル展示参加
  - \* 市民会議 11月26日

《編集後記》

台風12号の影響による水害を受けられた、奈良県、和歌山県の方々にお見舞い申し上げます。

リバプレ隊だより 編集委員会  
富岡、伊藤、後藤、渡邊、美濃部